

●公共交通乗り放題(案)

Q.

公共交通乗り放題(案) 上記、タイトルの提案を致します。

交通まちづくりは、SDGs につながることから提案します。例えば、100 人全員が自家用車で移動するのと、鉄道やバスで移動するのとでは、排出する二酸化炭素の排出量が全く違います。こちらのほうが、エネルギー消費は極めて効率的です。

また、渋滞が解消されプラスになります。その他、保健、教育、エネルギー、成長、雇用、気候変動等、SDGs を実践出来ます。

移動手段を車から歩きに変えるだけで健康になり、医療費削減につながるかもしれません。さて、タイトルの公共交通乗り放題(案)ですが、オーストリアでは、公共交通は、1日3ユーロで乗り放題としました。脱炭素化のため2021年からはじめました。一年間のバスを買えば十数万円で乗り放題です。北海道と同じくらいの面積の同国で、新幹線、特急、急行、バス等が乗り放題になるのです。これを聞いたドイツでは今年5月、月7400円で公共交通を乗り放題にしました。発売当日だけで300万人が購入したそうです。紹介したのは一例ですが、各関係機関に収入が入ります。利用者ともWin Winになります。

何卒、ご検討くださいませ。

(令和5年7月受付)

A.

この度御提案をいただきました鉄道やバスを含む公共交通の乗り放題については、ヨーロッパの一部で導入されており、エネルギー削減や、車からのCO2の排出量を減らす目的として、国を挙げた戦略的な取組として事業が行われていると認識しております。

鉄道やバスを含む乗り放題の実現は、地球温暖化対策として有効な手段であると考えられますが、それを実現するためには、全国的に乗り放題とするための仕組みの構築が必要となることや多額の財政負担が生じるなど、官民が一体となった国策として取り組む必要があると考えております。

当市が行っておりますコミュニティバス事業においては、高齢化により運転に不安のある高齢者の免許返納等が進んでいる中で、市内の各所において公共交通の空白域が点在している状況であります。そのようなことから、市内全域における公共交通整備の早期実現を最優先に取り組んでおりますが、御提案の公共交通の乗り放題の実施については、現時点においては考えておりません。

(令和5年7月20日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。